

平成22年度第2回 下山地域会議 会議録

【日時】平成22年5月20日(木) 19:00~21:00

【場所】下山交流館第11会議研修室

【出席者】委員 14名出席 3名欠席

事務局 加藤支所長 中野主幹 宇野副主幹 中根係長 加藤

【次第】1 あいさつ

2 議題

(1) 平成22年度わくわく事業二次募集の申請状況について

(2) 定住促進策について

下山地域の現状について

しもやま住んでみりん定住促進事業について

3 今後の日程について

4 その他

---

【内容】

1 あいさつ

(会長) 別の会議で、都市部の人との意見の相違をすごく感じた。下山にとって、下山の住民が地域に住んで、本当に幸せだと感じるようなお手伝いができればと思い、今日の会議も進めたいと思うので、よろしく願いしたい。

(支所長) こんばんは。地域予算提案事業で4つの事業を考えているが、定住の関係で30集落に入りワークショップをやっていく中で、皆さんに主体的に行っていただく協力をお願いしていくことになる。今まで、区の組長会などに話しに行くことをお願いしているが、地域会議をアピールする良い機会かと思っているので、よろしく願いしたい。

合併し、農山村の振興をしていきたいという思いがあり、それぞれ所管が社会部、産業部などばらばらで、統一性がないため、農山村振興の専門監で統括する職員が総合企画部に配置され、統括的に進めていくことになるので、よろしく願いしたい。

2 議題

(会長) 順番を入れ替え、(2)から行う。

(2) 定住促進策について

下山地域の現状について

資料に基づき説明(事務局)

しもやま住んでみりん定住促進事業について

資料に基づき説明(事務局)

(事務局) 30集落ワークショップに入るにあたり、集落情報、どんなことを聞いた方が良いのかを検討していただきたい。集落に入る人に、どんな情報が必要か、聞きたいかということの整理と集落で、どんなことを聞いてきたいかも含め検討していただきたいと思う。

(会長) 区長・組長に協力いただき、地域の思いや情報を把握しデータにしたいと思う。集落に入り説明会をする際に、地域会議のメンバーは開会と閉会の挨拶をしていただき、地域からどんな意見が出てくるか把握してほしいと思う。30集落あるため、どういう風に割り振って進めたらいいか。また、自治区役員会の日程が載っているが、大沼から要請があり、地域会議とはどういうもので、地域会議を、地域の人に何をしているものかを伝えるために出かけてきた。合併により7自治区になり、意見の収集が難しくなった。そのため、地元が何をやってほしいのかを吸い

上げて、実施できるものを検討していく役割があると思っている。定住促進事業を進めるにあたり、地元を理解を得るための説明会に、必ず一人は出て、集まっていたいただいた方にお礼の挨拶をしていただきたいと思います。

(事務局) 6月の区長会で事業の説明をし、30集落の開催日を決め、区長と地域会議に確認をさせていただく。定住を今後、地域会議で検討していくため、地域会議委員に集落でやっていただきたいことは、どうして集まっていたか地域の予算提案事業の説明と司会、進行。意見を聞くことは業者が行うため、終わった時に最後のしめとお礼をしていただきたいと思います。

(会長) 4月の区長会で、地域会議の委員が地元の会議に出席することをお願いした。地元で地域会議の認識度を高めることと、意見を挙げやすい体制づくりのために説明をしていただくと、次の体制に入りやすいと思う。日程が書いてあるが、区長と相談をして、お願いしたいと思う。

(委員) 集落ワークショップは組になるので、司会程度でいいのなら、当地区は3集落なので同じ日で重ならなければ、何とかできると思う。専門的なところは業者が進めてくれることになれば、地域の人に、何で集まってもらったかの説明ならできると思う。

(会長) 他の地区で問題はありますか。地区に入るには2つあり、1つは組長会で地域会議の説明、もう1つは集落で決めてもらった日に行くことになる。

(委員) 和合で言うと同じ日に行っているため、その時だけ分けてやってもらうことにすればいいのか。改めて、このために集まってもらうには、どれだけの人が出てくれるか心配があるし、定例会の日を移動することは可能だと思うので。

(事務局) 区長会になげかけ、その集落ごとに定例会でいいのか、定例会は話す内容が多いので別日がいいのかは、その集落に決めてもらう。30集落あるので同じ日に重なってしまうとできないため、希望を聞き、個別の調整をお願いすることになる。

(委員) 30集落はどうやって決めたのか。

(会長) 村の時の1つの行政単位。花山でいうと組が8つある、それを全地区たすと30。

(委員) 組単位でいくと集落ごとの事情があり、その中で全てに定住施策をしると言っても、1つでくり、やれというのは無理だと思う。無理な所は飛ばし、結果のでないものはやっても徒労に終わるので、読めるのなら、もったいない気がする。

(会長) 空き家、空き地は別だと思う。

(委員) 花山の場合は、団地の中に空き家はあるが、事情や縛りがあり、これに参加できないというものが大半である。内情が分かっているのであれば、やる必要は無い気がする。

(会長) 地域性があるのもわかるが、スタートは満遍なくの方が良いと思う。やってみた結果はそう出ると思うが。

(事務局) 前回の地域会議で検討している中でも全く同じ意見が出て、7自治区が良いのか、30集落が良いのかで話し合った。30集落にこだわった理由が、下山地区として、現状は30集落全てに知ってもらべきではないかということと、空き家情報バンクを市の施策として行っているため地域実情の情報を集めてくると、アンケート調査は平成19年度に全世帯に行っているが地域懇談会という形で地区の課題の吸い上げをしていない。それを合わせて、30集落に定住に関する説明と意見の集約ができたということと7自治区ではなく、30集落で行うという結論になっている。

(会長) スタートは満遍なく、スタートしたいと思う。

(委員) 定住促進以外の別の要望も聞くということで、良いか。

(事務局) 要望が道を直してほしいではなく、住んでいる上でどうかという話を聞いてくる。

- (委員) 何を見れば、今までの経過がわかるのか。どう進んできているのか。
- (会長) 今まで、基礎的な資料から進展はしていない。これから取り組んでいくことになる。
- (委員) 前年度のうちに自治区長を通して、30集落で行うことの話がいつているか。
- (事務局) 2月に定住勉強会を行い、その時に区長と組長に出席いただき、同じ資料で30集落に入ることを説明している。
- (委員) 定住促進事業というのは、Iターンの人、新しい調査がメインで、転出者を残すような工夫をするなども定住促進か。
- (事務局) そうです。集落ごとに何を望んでいるのか、I・Uターン・新規転入者が良いなど、集落ごとで、これから考えていただく。自分達は何がしたいのか、何ならできるのかを聞いていく。
- (委員) 空き家対策と言っているが、これから4・5年経つと和合でも空き家になる家が、沢山ある。空き家を探すのではなく、空き家を少なくすることをしなければいけない。若い人もいない。今は良いが、若い人の子が外で育てば下山には帰ってこない。
- (会長) 若い人が出て行かない産業がないか、次男三男対策としてみて下山地域内に住めることができなかなど、これから考えていく。
- (委員) 自分の子を外に出さないようにする、その問題もこの中で対応しようというわけか。宅地分譲可能地の検討もあるが、現在の花沢の団地は50坪内外で、長男と一緒に住むと言っても建増しができない。現状だと庭をつぶして車庫を広げたい、そこに安く土地を供給できて補助を受けて格安な住宅ができるなどを視野に入れてやっていくことができるか。
- (会長) 大規模宅地の開発は考えていないと思う。小規模で、もっと大きな宅地を作って田舎に住んでいる余裕があるものを。
- (委員) 業者任せになるのか、市がやれるのか。調査をどう活用するのか。
- (事務局) 土地利用規制をまず整理し、地元の意見を聞きながら、市として何ができるかを検討していくことになる。団地を売り出した当時、業者は、これだから売れる、総額が安ければ良いということであった。
- (委員) 子ども達が下山地域から離れないようにと考えていくと、もともと住んでいる方は土地があるから供給できるが、新しく入ってきた方は小さな土地しかない。そこに家を作ることができなくなると、格安に土地を探して市が提供できるとまで言わないと定住にはつながらないと思う。
- (会長) 空き家と空き地と新設の宅地と色々あるので、定住促進は人口を減らすのではなく、増やそうということなので、それに対して行うことは色々あると思う。
- (委員) 足助だったか、地域の今までのコミュニティを壊さないような宅地の開発を目指してやっている、例えば30の集落に30戸の宅地を作ってしまうとバランスが崩れてしまうということで、5・6戸とか、そんな計画を持っている所があり、そこら辺を限度に宅地開発をしないと集落を構成しているものが崩れてしまうという話を聞いたことがある。
- (会長) 足助のカウロゲ地区で炭焼きもやられている代表者の方に来ていただいて話をしてもらった。地域に慣れてもらうことが大事で交流会を開き、ここに住んでもいいかなと思ってもらい、何区画か定住をしてもらったという話を聞いた。
- (委員) 廃校跡地の活用計画は、市の土地でもできるのか。可能なのか。
- (事務局) 地元の話を伺い、法規制などを見ながら検討することになる。
- (委員) 30集落の意見を聞くのに、こうしていこう、というのがきちっと決まっているわけではなく、現状把握をして皆が何を思っているかを拾い出して、それから話を進めていこうという基

を作ることだと思う。今あそこが良いから、マンションを建てようなどの話ではなく、現状を皆に知ってもらいながら、集落が何を要求しているかを掴み出してくることが先で、具体的な話はまだできてなく、これから組み立てていく話になる。

(委員) いろんな所で検討していた気がするが、何もまだできてなく、これからやっていくということか。

(委員) 30集落の代表者に集まってもらうのに、1集落何人という規定があるか。大きな集落だと、組長に権限があるわけではなく、何かを決めるなら班に戻り班会を開き、さらに団地会が必要となれば、団地会をしてからとなり進んでいかない。1回で済むように行うのに、ある程度の基準があるか。どう選んできた方がいいのか。

(事務局) 集会所の大きさにもよると思うが、15から20人程度を想定している。

(委員) 蕪木が12戸しかないので、15人出せというのは無理になる。

(事務局) 区長会で改めて相談をさせていただくが、出られる人数でお願いしたいという願いをし、最低何人は出席をお願いする形をとりたいと思う。

(会長) 細かいことは区長会に説明して決め、来月の地域会議において実施の仕方などを説明し、進めていけたらと思う。委員は地域の集會に出て、進行役をお願いし、意見をしっかり聞いてきていただきたいと思う。

(1) 平成22年度わくわく事業二次募集の申請状況について

(事務局) 二次募集は1団体の申請があった。前回の審査会と同様に事前に不明確な点を公開審査で確認していただき、審査会で決定していく。

(会長) (2)定住促進策の地域情報の確認は資料に書いてある以外に足すべき項目があれば。

(事務局) 新しく住む方に、この情報だけでいいのか、他にもあるか。

(委員) 学校までの距離と通学路が確保されているかどうか。

(委員) 学校までの通学手段、スクールバスなど。

(委員) 交通手段がない方のために、公共交通手段、しもやまバスが週に1回あるなどの記載。

(事務局) 小学校までの距離、通学手段・交通手段と、地域のうりを追加したいと思う。今後の予定で、土曜にわくわくの二次募集の審査会、6月17日に第3回地域会議、その時に、事業の詳細と日程の話ができたと思う。会議録、ご一読いただき、気づいた点があったら、事務局まで連絡をお願いしたい。

(会長) 自治区役員会の日程の調整をしていただき、顔出しをお願いする。以上で地域会議を終了する。